

H O L O C A U S T

独ソ戦と ホロコースト

永岑三千輝

ホロコーストを
生み出したのは
「普通のドイツ人」
なのか

ゴールドハーゲンの
論説に対し、
第三帝国文書を
詳細に検討しながら
反証する

日本経済評論社
定価（本体5900円＋税）

序 章 問題の視角と限定……………1

——ホロコーストをいかにとらえるべきか……………11

第1章 独ソ戦勃発期のドイツと占領地……………11

はじめに——ホロコーストの推進主体……………15

一 戦時下警察機構と治安秩序……………16

二 占領地の治安確立と現地地の政治勢力……………36

三 現地地の民族主義諸潮流とユダヤ人排除・ゲッター化……………48

おわりに——一九四一年夏、独ソ戦勃発直後「麻痺」の構造とホロコースト……………67

第2章 独ソ戦の現場とホロコーストの展開……………75

はじめに……………77

一 国防軍のソ連における行動指針とユダヤ人の位置づけ……………79

二 独ソ戦の現場 一九四一年七月—八月……………87

三 バルバロッサ作戦の挫折とヒトラー指令……………92

四 セルビアのバルチザン戦争と男子ユダヤ人射殺……………101

おわりに……………112

第3章 東方占領地の拡大、高まる抵抗と「冬の危機」……………127

はじめに……………129

一 「平穏」なライヒとソ連以外の占領地……………130

——一九四一年八月—九月の「国家警察重要事件」通報が示す治安状況……………151

二 ソ連地域占領の拡大と危機要因の堆積……………151

——八月—九月の「事件通報・ソ連」の示す治安状況……………162

三 終わりのはじまりとしての「冬の危機」……………162

おわりに——「冬の危機」脱出・現地民衆統合策としての再私有化政策とホロコースト……………187

総力戦への転換とヒムラー命令の諸相……………207

はじめに……………211

一 「冬の危機」・新たな攻勢準備とライヒおよびソ連以外の占領地の治安情勢……………212

二 新たな大攻勢の準備と農民大衆の統合政策……………245

三 ヒムラー命令に現れた危機の諸相と攻勢的対応……………271

——ドイツ民族主義と戦況悪化による「麻痺」の段階的高進……………271

スターリングラード敗北後の総督府の全体状況と民衆……………301

——ワルシャワ・ゲッター蜂起の政治経済史……………301

はじめに……………303

一 軍事的敗退と総督府の「政治指導の喪失」……………303

二 総督府の食糧貢献と致命的食糧状態……………314

三 総督府の非ドイツ人労働力の投入課題と労働予備軍の涸渇……………332

四 ドイツ民族強化政策の課題と総督府統合課題のせめぎ合い……………338

五 総督府の隠蔽された食糧供給源・治安維持要因の涸渇と「平穏」の構造……………345

六 総督府の騒乱状況と鎮圧 348
 おわりに 355

第6章 「七月二〇日」事件前夜とドイツ人民衆の動向………369

——大戦末期ドイツ民衆の「麻痺」の構造

はじめに 371

- 一 総体的戦争努力の最終局面 374
- 二 国内予備軍の崩壊徴候と民衆の生活環境 382
- 三 ヒ首伝説的状况の萌芽 384
- 四 後方地域民衆の精神的解体現象と前線兵士 388
- 五 東部前線の崩壊とドイツ人民衆のロシア人への驚嘆 389
- 六 敗残兵の大量帰還と東部ドイツ民衆の逃亡の開始 391
- 七 「確信に満ちた」民衆の極小化と即時戦争終結の期待の全力阻止 394
- 八 崩壊状況にたいする親衛隊中枢の意識と状況把握 398

第7章 疎開、逃避行、追放による難民化と「普通のドイツ人」………411

——戦争終末期「死の行進」前後の東部地域の民衆

はじめに 415

- 一 オストプロイセンからの疎開・逃避行、そしてポツダム協定による追放 418
- 二 ヴェストプロイセンからの疎開と逃亡、追放 431
- 三 ヴアルテラントからの疎開と逃亡、そして追放 433

四 シュレージエンからの疎開と逃亡、そして追放 437

五 ポンメルンからの疎開と逃亡、そして追放 445

おわりに——「普通のドイツ人」難民・被追放者の精神構造 452

第8章 総括——ホロコースト研究の今日的意味は何か………461

- 一 歴史的パースペクティヴ——二〇世紀世界の総括の視点 465
- 二 「麻痺」からの解放——敗退過程と非ナチ化・脱ナチ化 467
- 三 グローバル化の基礎にある地域統合の拡大——逆流に抗しつつ展開する民主的統合原理 472

あとがき 477

参考文献
 索引